

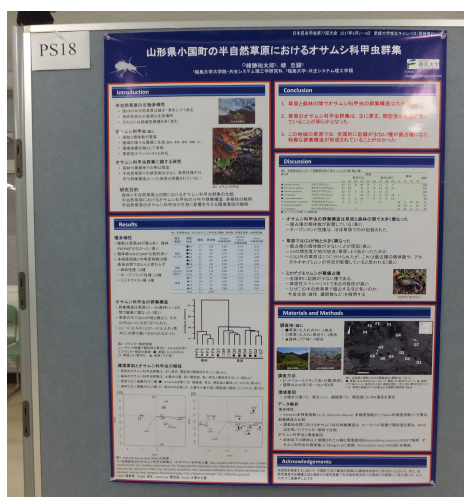
学会参加報告

2017 年 9 月、塘研究室の学生たちは 3 つの学会に参加し、それぞれでプロジェクトと関連する発表をしてきました。以下に簡単に報告します。

9 月 2-4 日に愛媛県松山市の愛媛大学で第 77 回日本昆虫学会大会が開催されました。緒勝祐太郎君 (D2) 『山形県小国町の半自然草原におけるオサムシ科甲虫群集』と鈴木花苗さん (B4) 『駒止湿原 (福島県南会津町・昭和村) のミズギク花に生息する *Haplothrips* 属のアザミウマ (アザミウマ目: クダアザミウマ科) を含む日本産 *Haplothrips* 属の分子系統解析 (予報)』がポスター発表を行いました。京都府立大学の中尾先生を中心に進めている科研費による共同研究に、福島大学から兼子さんと塘が参加していますが、今回の鈴木さんの発表はこの共同研究に関する内容です。まだプロジェクトとの直接的な関係はありませんが、今後、磐梯吾妻地域から得たサンプルも解析に加えていく予定です。緒勝君の発表した研究のフィールドもぎりぎり磐梯朝日国立公園内ではありませんが、近接する山形県小国町の調査で得られた結果の発表でした。

9 月 21-23 日に富山県富山市の富山県民会館で第 88 回日本動物学会大会が開催されました。大平創君 (D4) が一般口演で『韓国における 1997 年以降のカニムシ相調査-韓国産および日本産カニムシ類を用いた分類学的・系統地理学研究』を発表しました。また、大平君は新潟大学理学部の宮崎勝己先生と塘がオーガナイザーを務めたシンポジウム「(数ミリ以下の動物学 VI) 小さな動物たちの多様な生き様」でも講演しました (『カニムシ学: その生態と多様性』)。なお、このシンポでは塘研究室の学振特別研究員 (PD) の真下雄太さんも講演しました (『朽ち木の中の"天使": 微小昆虫ジューズヒゲムシの生き様』)。シンポでは二人以外に奈良教育大学の石田正樹さんによる『教科書通りにいかないゾウリムシの収縮胞』、クイーンズランド大学の千徳明日香さんによる『砂の上で暮らす小さなタマサンゴの生存戦略』、京都大学の田川正朋さんによる『小さな脊椎動物? 仔魚の生理生態と変態』の 3 つの講演がありました。30 名近くの来聴者があり、質疑応答も盛り上がりました。夜は大会の懇親会の後、オープン参加型の慰労会を開催しましたが、お店に「16 名が限界です」と言われた部屋に 18 名が入り、さらに盛り上がりしました。

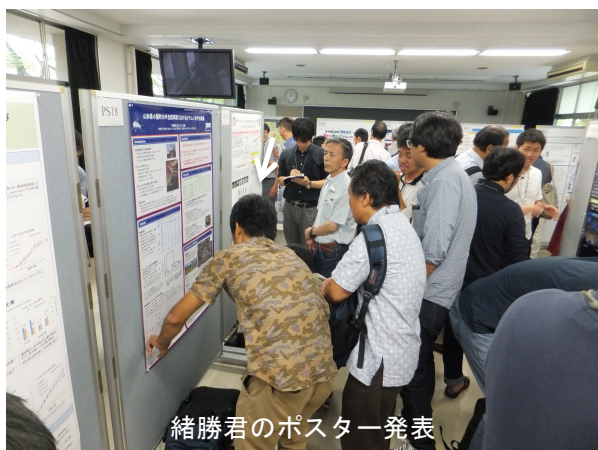
9 月 28 日-10 月 1 日に秋田県仙北市の駒ヶ岳グランドホテルで第 82 回日本陸水学会大会が開催されました。林宏至朗君 (M2) が一般口演で『北日本における止水性ヒメシロカゲロウ (カゲロウ目: シメシロカゲロウ科) の遺伝的多様性』を発表しました。会場はクニマスで有名な日本最深湖、田沢湖からそれほど遠くない場所である田沢湖高原温泉郷にあり、ホテルを全館貸し切って 200 名の参加の下、開かれました。林君の発表した会場は通常は和室の大宴会場で、畳の上に簡易絨毯? を敷いて、その上にパイプ椅子を並べて作られたものでした。毎晩、夜遅くまで自由集会などもあり、200 名も集まる大きな学会としては珍しい形 (全員が同じ場所に宿泊する) での開催でなかなか楽しめました。



緒勝君のポスター



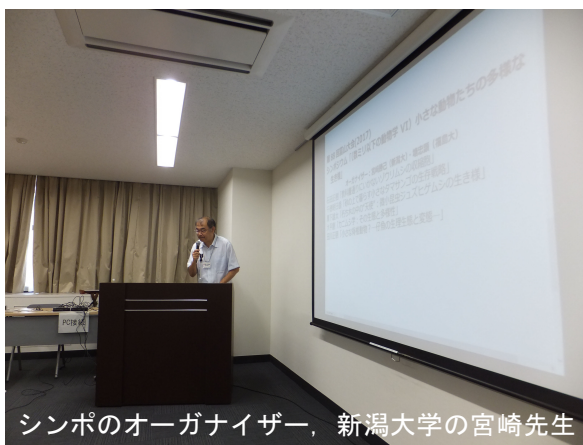
鈴木さんのポスター



緒勝君のポスター発表



鈴木さんのポスター発表



シンポのオーガナイザー，新潟大学の宮崎先生



大平君のシンポでの発表



真下さんのシンポでの発表



陸水学会会場，駒ヶ岳グランドホテル



林君の一般口演での発表